

平成21年第1回まちづくりトーク

議 事 録

考えてみよう 地域力

2009年（平成21年）8月1日（土）

10:00～12:00

久木小学校家庭科室、図書室

【平サポーター】 わくわくウィークの最終日、市長とおやつを作りましたが、冷やしている間、市長といろいろと話をしていきたいと思います。まず、はじめに久木小学校の取組みについて、神田校長よりお願いします。

【神田校長】 これまでいろいろな場でお話をさせていただいておりますので、重なるところも多いかと思うんですけど、今年の夏の取組みだけ絞ってお話をします。ちょうどきょうが最終日という、先ほどお話ありましたけれど、わくわくウィーク1週間、ちょうどきょうが7日目に当たります。今、あそここのところに映像が映っていますけれど、今まさに始まる場所ですね。わくわくコンサート、これは7月30日にありました。7月の26日からスタートして8月の1日までがこのわくわくウィークでした。全部で11講座、それにコンサートが1つ。だから全部で12になりますね。教室としては23教室。大変長い1週間でした。参加していただいたのは、教室のほうは604名、これが応募票なんですけどね、応募票だけで604名で、飛び入り参加が100名を超えたと思います。ですから、ものすごい数です。それからあと、このわくわくコンサートのほうは、客席で観客として見たのが429名、関係した出演者その他ですね、それがやっぱり100名以上いましたので、500名を超える参加の形の大きなコンサートになりました。

こんなわくわくウィークでしたけれど、このわくわくウィークの取組みは今、平さんのほうからお話があったように、コーディネーターの方、それからPTA役員の方、さまざまな方々の御協力で組み立てをして、そして実際に動き出したところでは、さまざまな講師の方に大変お力をいただきながら、この1週間を過ごしてきたわけです。去年、今年というふうになってですね、大分、コンサート一つにしても規模が広がりました。去年は特活室で100名なんてとんでもない、50名ぐらいの小さなコンサートだったのが、今年は10倍を超えたわけです。私は陶芸教室を担当しているんですけど、陶芸教室もおよそ倍の人数になりました。そんなふうに、このままいったらどうになってしまうのだろうという、そんな心配もあるくらい大きな膨らみを見せたわけですが、それに伴ってさまざま今後考えていかななくてはいけない課題も見えてきたような気がいたします。これが今回、取ったアンケートです。去年は取らなかったんです。こんなにたくさんです。このアンケートなどをもとにしながら、このアンケートも全員の方にとっていたんですけど、あまりにも熱心に書いていただくので、まとめるのが大変だろうと思って、途中からあまりたくさん配らないようにしました。大変ずるいんですけど。こんなアンケートを少しまとめながら、来年度以降のこのわくわくウィークを考えていきたいと、そんなふうに思うところです。

わくわくウィークがやっと終わって、もう9月、10月のことを考えるわけですが、サポーターの方には今、きょうちょうど図書室ですけど、この図書室でも新年度になって改めてまた

図書館サポーターの方に新たな取り組みをしていただいているところです。また秋には花の植えかえがあったり、それから大きな取り組みとして去年まであったフリーマーケット、これは今年はフェスティバルにしていくということで、これもまたサポーターの皆さんとどういうふうな取り組みにしていくかということ、その辺を考えていかななくてはいけないという、秋へ向けての課題かなというふうに思っているところです。

きょうはまた教室を受けた印象、またこのわくわくウィークの中身、また久小の取り組み、またこれからの逗子市の各校の取り組み、いろいろなことが話題になって、これから地域と保護者と学校と、もちろん子供たちを中心に置いての取り組み、どんな展開が考えていけるのか、そんな話し合いができるといいなというふうに思います。よろしく願いいたします。

【平井市長】 皆さん、こんにちは。きょう、どうでしたか、上手にできた？ 一番小さいの、僕、何歳？（「5歳」）5歳。幼稚園？ 年中さん？一番大きいのは…あそこか（笑）。初めてこの久木小学校でこうしてみんなとデザートなんかをつくって、楽しいひとときを過ごしました。本当にありがとうございます。わくわくウィークって、僕も初めて参加したんだけど、どう、みんな、楽しい？ 楽しそうな顔してないな。もうちょっと、楽しい…そうそう、そういう感じ。さっきね、つまみ食いたんだよね。おいしかったよね。おいしかった？ ばっちりだった。久小はこうしてね、地域の人とかお父さん、お母さんが一生懸命やってくれているでしょう。逗子の中では久小、一番だよ。こんなすばらしい学校はまだないんだよ。ねえ、神田先生。もう神田先生がいるからだよね。ちょっと変わり者だけどね（笑）。型破りの校長先生ですからね。こういう人がいないと、なかなかね、こういうことにはならないですよ。この平のおじさんね。平のおじさんもね、あと川上さんってね、この久木の大御所ですよ。大御所なんて言われてもわからないか。すごいね、久木の昔からのことをいろいろ知っているおじさん、知ってます？ 川上さんって、知ってる？ 川上さんの息子さん、僕の1個下なのよ。久木中の陸上部の後輩なの。

僕もここの、1年だけお世話になったんです、久木小学校で。2年生のときに1年だけ。それで、3年に上がるときに、学区が変わったんだよね。池子小学校ができて、僕は今、新宿に住んでいて、ここから見えるんだよね。この窓の、あそこの披露山の中腹にさ、石原慎太郎都知事の別荘があるの、知ってる？ 石原慎太郎都知事って、知ってる？ あ、ボーイスカウトか。じゃあ、すぐあれだよ、おじさんの家のすぐそばですよ。あのだから白い都知事の別荘の真下に住んでいるんです。最初の1年間というか、2年生のときは久小に通っていたの。そうしたら、いきなりさ、学区変わるとかって、住んでいる場所が同じなのに、変わっちゃったんですよ。池子小学校ができたんだよね。それがだから新宿が昔は久小学区だったのが、逗子小学区に統合って再

編されちゃったの。それで3年生から逗子小に行ったんです。最初、あのとき佐藤先生っていうね、知りませんか。女性の。マミさんじゃない、もうずっと、とっくに昔の。まあいいや。

どうですか。子供たち…子供たちって言っていいのかな。子供たち、こういうのやってくれて、どう思ってるの。（「うれしい」）ほんとううれしい？ うれしそうな顔して言って。（「うれしい」）どういうところがうれしいの？ 日ごろお手伝いとか、します？ お料理とか、する？ あまりしない？ 子供たちに何か言えというのも難しいよな。お母さんたちさ、大体常連なの？（「いいえ」）でも、サポーターなの？ どうぞ。今年は何回ぐらいとか。

【児童母親】 今週はもうほとんど学校に来てるといふか、壁画教室とコンサートと、あとは昨日ですね、陶芸、校長先生の陶芸教室と、あと今日ですね。

【平井市長】 すごいね。

【児童母親】 楽しく過ごしています。下の子を連れて、もう全然楽しめて、下の子までも一緒に楽しんで。会費も良心的な会費で。

【平井市長】 安・近・短だね。

【児童母親】 はい。そうですね、近いし。

【平井市長】 コンサートのね、御案内いただいていたんですけどね、ちょっと今、逗子いろいろ大変になってましてね、もう眠れない日を過ごしているんですけど（笑）。だからね、行けなかったんだよね。残念なんですけど、チケットとかすごい、プロはだしのチケットとか、あれ、だれがつくったの？ ここには来てない？

【教職員】 オキさんという保護者の方です。

【平井市長】 保護者の方。みんなすごい才能持ってますよね。きっと多分、それぞれみんないろんな才能持ってるんじゃないですか。爪隠してるでしょう、まだまだ。どうです。こんなこと次やりたいなというアイデアが出るといいなとか思ってたんですけどね。何かないのかな。（「手芸教室」）手芸教室、どんな手芸なんだろう。あ、そうだ、子供たちからアンケートとったことある？ 何、こんなのというの。そういうのはいいかもね。こういうのやってみたって。あと、ほら、池子にある理科ハウスもね、協力してくれるよ、きっと。科学実験とか、ああいうの。でんじろう先生みたいに。でんじろうって、知ってる？ 知ってるよね。しゃぼん玉とか、ブーッとかってやっちゃう人。あんなの、理科ハウスの人、お手の物だよ、きっと。ああいうの、どう、やってみたい？ 何かやってみたいことある、こんなのって。

去年ね、あれ、6年生だったっけ、市長への手紙というのをくれたんですよ。だれでもいいから手紙を書いてくれという、そういう授業があったんですよ、多分。そうしたら、何人かが市

長さんへといって手紙をくれたんです。それで、お返事を書きました。それで、直接教室に行ってお返事をお渡ししたんです。で、20分ぐらいだったかな、教室で少しだけお話ししたんですけど。なかなか、何をしゃべっていいのかわからないんだよね。（テーブルの上のネームプレートに）「市長」って書いてあるけど、この人…、市長って、どういう人か知ってる？ 何してる人か、知ってる？ はい、積極的だね。

【児童】 市のいろいろな仕事について決める人。

【平井市長】 ああ、いいところ突いてるね。でも、最後決めるの、あの人なんだよ。実は。決まり事をね、提案する人なの。こういうことをしたらどうですかって。それを考えて、つくって、それを提案するの。議会というところに。そうしたら議員の人が、それはいいとか悪いとかね、時々とんでもないとか言われたりね。これはいいねと言ってくれたりさ。それで決まったら、その決まったことをやるのも市長の仕事なんです。だから、よく言われる。何で久小にはエアコンがないのって。さんざん言われている。困ってるでしょう。逗子小だけね。暑い？ 暑いわな。

（「窓を開ければ涼しい」）お、偉いね。窓開ければ涼しい。さっき涼しかったですよね。ちなみに、私の部屋はね、エアコンついてるけど、使っていないから。やせ我慢してるの、風を通して。汗かいたほうがいいよ。なんて、言いわけしてるわけじゃないですよ。

【神田校長】 2階は教材室なんでね、風がすごく通るんですよ。子供たちの教室は南向きになってますので、風が通りにくい。

【平サポーター】 ここは、さっき開けてわかるとおり、ぴゅうって風が通りますね。

【平井市長】 海風が来ますよね。

【神田校長】 ぜひお願いします。

【平井市長】 いいよ。今、一生懸命頑張ってるから。考えていても、できないと言ったりね（笑）。さあ、せっかくだから、（小学生の）大きいお姉さんたち、日ごろは何、地域のおじさんとかおばさんとか、お父さん、お母さんとかね、自分のじゃなくてもね、来てくれて、こうやってくれるの、どう思ってるんですか。うれしいと思ってる？それとも、ちょっと、まあほどほどがいいかなと思ってるのかさ。何かない。

【児童】 ちゃんと来てくれるから、何かうれしい。

【平井市長】 うれしいって。よかったね、平さん。

【平サポーター】 去年、田んぼつくったよね。

【平井市長】 ここのね。

【平サポーター】 この前は鎌倉付近のお母さんたち来てくれたんですよ。

【神田校長】 これから6年生が、地域の、久木地区の地域を学ぶ、歴史を学ぶということで、地域のお年寄りにいろいろ教えていただけるとか、久木の歴史、去年はある委員さんの中の、昔住まわれていたところに、みんなで一緒に行ったり、松岡さんのお宅にお邪魔して、昔から伝わるお宅の宝ですね、それを見せていただいた。

【平井市長】 この間、文化ホールのあるあそこの展示のところで行った逗子の写真展があったでしょう。あれ、見に行った人、います？ 見に行っていない？ 文化プラザがグランドオープンで、全部完成して、そのときにイベントやったんですよ。逗子の昔の写真とかを市民の人から集めて、それで展示してたのね。あれ、どこやっちゃったんだろうね。とってあるんだよね。あれはすごくおもしろいですよ。昔、逗子に遊園地があったなんて、知ってる？ 知らないでしょう。昔昔、おじさんも知らないの。生まれるぐらいまであったのかな。昭和40年代かかるぐらいまで。コンーランドというね、遊園地がね、小さい遊園地だけど、海岸のところにあったんですよ。海岸に。映画館が逗子にね、昔3つあったんだよ、知ってる？ 3つあったんだって、映画館が。ボーリング場とかもあったんだよ。昔は。海岸で海上ページェントとってね、海岸に舞台つくってね、それでイベントとかやってね、結構有名とか来てね、それで海の女王コンテストとかね、パレードとかね、やってたんですよ、昔の昔。もう40年ぐらい前。そういうときの写真が展示してあったの。あれはおもしろいから、ああいうの、来年のわくわくウィークとかさ、どこか図書室でもね、展示してみたら、へえってね（なると思うよ）。

逗子海岸に昔ね、一夏で300万人、海水浴客来たんですよ。300万人。想像できる？ 横浜市の人口は360万人だから、横浜市の全員が一夏で来ちゃったくらい。今、大体逗子はね、海水浴期間でね、30万人から40万人。10倍ぐらい来ていたんです。ひどいよ。足の踏み場もないくらいに人でいっぱいだったんです、海が。信じられる？ そうそうそう。

【神田校長】 海岸も広がった。

【平井市長】 海岸も広がったの。あそこの134号線の海岸の道路がなかったんですよ。あそこ、オリンピック道路とって、オリンピックのときに完成して、開通したんですよ。そういう逗子の歴史とかを、あれだね、だれかに語ってもらおうとおもしろいですね、へえって（なると思うよ）。

【神田校長】 以前、歴史教室を開いたことがあるんです。人が集まらなくてね、いろいろな先生がお話をしたりしたんですけどね。

【平井市長】 やっぱ写真がいいですよ。写真がね。昔の逗子駅前のロータリーとかね、知ってる人なんて、この中に何人いるのかな。あれが、だから平成になる前ぐらいじゃないかな。20

年ぐらい前だね。今とは全然違うロータリーだったんですよ。その写真とかもある。久小は40年ぐらい変わってないね。（「35年です」）35年か。

どうですか、僕ばかりしゃべってもしょうがないや。参加してる皆さんに、こんなこと、もっとあったらいいなとかさ、わくわくウィークとか、あとは地域の人こういう協力があつたらもっといいなとか、自分はこんなことしたいなとか、ありません？ プール。ああ、あっちに行かなきゃいけないから。久小の子たちは。

【神田校長】 プール必要ですね。体育館の上とか。

【平井市長】 体育館の上とか、下とか。せめて。暑いね。

【神田校長】 低学年は7月になると、暑くて、鼻血が出るんです。

【平井市長】 あ、そうなんだ。のぼせちゃうの？

【神田校長】 あるべき学校の姿、開かれた学校の姿ではない。文化的に豊かな学校というのは…。いや、実に文化的ですよ（笑）。この時代にやっぱりクーラーが、冷房設備がないというのは、ちょっと厳しいですね。

【平井市長】 そうですね。確かに昔は僕の家もクーラーなかったですもの、子供のころは。今は、ないとちょっと寝つけない感じですよ。

【神田校長】 今、子供たちの自由時間というのは、土曜日はない。どの時間帯も結構、小学生頑張っているんですよ。夏のほぼ7月、8月、9月、もう本当にね、参っちゃいますね。大人でも参っちゃう。子どもが鼻血出して頑張っている。

【平井市長】 何か苦行してるみたいだね。

【神田校長】 耐えることを学ぶ。

【平井市長】 まあまあ、それ（クーラー）は今ね、頭ひねってますから、どうやって捻出しようかってね。いや、こんなことをもっと、例えばね、地域の人と一緒にやりたいなとかって、さっき手芸教室なんて言ってたけどさ、子供たちでもいいや、こんなのちょっとね、学校ではなかなかならないけど、やってみたいなとか、聞いてみたいなとか、そういうの、ない？ 大人でもいいです。こんなのあったらいいんじゃないかなとか。アイデアありません？ 何かありそう？

こんなのとってないの？ どうでしょう？

【神田校長】 市長さん、いいですか。僕は平さんとカト切さんとね、さっきちらっとお話ししたフェスティバル、この秋、わくわくウィークが終わって半年経つ秋に、11月なんですけど、予定してるのが。去年はフリーマーケットをやった。今年はもうフリーマーケットはもう部分であって、もっとお祭りの色彩を強くしようと。例えばト切さんが、さっきお話があつた、でんじろ

うさんの理科の、外でダイナミックな実験教室ができないか？平さんとは久小の校庭にラクダが歩いているとおもしろいね、移動動物園とかね、実際は（連れてくるのが）高くて（「高いよね」）ちょっとそれは難しいなとかね。何かフェスティバルだからお祭りなんだけど、せっかくこの場で、我々が勝手にイメージをつくっても、わくわくウィークもそうですけど、先ほど市長さんにも言われて、そうだ、アンケートとったりしたことはないなと。そんな視点でこのフェスティバルも考えていくと、おもしろいかもなと。何かアイデアがあったらどうぞ。

【平サポーター】 秋にやった久小フェスティバル。先生たちがわたあめ作ったりしたよね。何かこんなのもあったらいいなというのがあったら、意見言ってください。

【平井市長】 何か子供たちの特技を発表する場所とか、ないの？ 学校生活して。ピアノがうまい子とかさ、そういう発表するとかね、あるいは何か運動が得意でさ、例えばサッカーのリフティングがね、得意で、リフティング大会とかさ。リフティングって、わかる？ ボールをぼんぼん、こうやって、中村俊輔みたいに、こうやってやるのとかさ、そういうのをみんなでね、コンテストをするとかさ。あるいは、そうだな。

【神田校長】 わくわくコンサートで、オープニング、フラダンスをやる。フラダンスのね、久小の子供たち、とってもかわいいんですね、すごい上手なんです。ふだん、そんなの見ないですよね。

【平井市長】 そうですよ。

【神田校長】 あと、太鼓。あれもやっぱり学校では見られない子供たちの姿がみられる。

「こんなのをやっているのか」って。

【平井市長】 何か子供たちが日ごろのみんなが知らない場面とか才能とか、見れたりしたら良いよね。意外にいろいろやってるんじゃないの？お母さんとかお父さんも結構、もしかしたら隠れた才能でさ、そういうのをフェスティバルで隠し芸大会じゃないけど、どうですかね、使って。何か我こそはという隠し芸、ある？ ない？

【児童母親】 披露山の動物園、貸しだそうと思うと大変だけど、披露山動物園のところの小さい動物を借りるってのは、どうなんですか？あれは市のものなんですか。

【平井市長】 あれは市ですね。

【神田校長】 貸し出す業者がいるんです。それでね、例えばウサギだとかヒツジだとか、一番小さなところね、ラクダなんてとんでもない話で、僕はゾウなんて思ってたんだけど（笑）。一番小規模なやつで、一度貸し出せると7万円。だけど、わくわくウィーク、去年、そんなに収入なかったものね。



【平サポーター】 それが全部それで消えちゃう。

【児童母親】 それを披露山の動物園から動物を借りてくるというのは？

【神田校長】 危なくないかなぁと思う。そういう専門の業者みたいなところに頼めば、それなりにしつげがしてあったりね、かまれたときにどうするとか、そういうのがあるけれども。

披露山の動物連れてきて、逃げちゃったとかさ、かまれたりとかしたら、とんでもない。

【平井市長】 あそこにいる飼育員さんは、民間の人に委託してやってくれてる専門の業者なんだけどね。

【児童母親】 クジャクなんか、見るだけで。

【平井市長】 ああ、クジャクね。

【平サポーター】 羽をバーとやってくれる。

【児童母親】 かもしれない。

【平井市長】 モルモットとかもいますよね。モルモットだったかな、何だか。サルもいっぱいいるけど。

【神田校長】 去年のフェスティバルで、子供たちの目が一番輝いたのは、ポン菓子をつくってくれた、爆発するやつ。あれをやってくれたんですよ。で、びっくりしたよね。あれを見て、なんか、そういう取組みがあれば、子供たちもものすごく盛り上がるし、さっき市長さんが言われたように、ステージがあると（盛り上がる）。今回わくわくコンサートでね、教職員がバンドを組んで、演奏やったよね。みんなで、子供たちが知ってる曲もたくさんやって、子供たちがステージのほうで踊り出しちゃうんですよ。あんなの見てると、ステージつくってね（良かったなあと）

【平井市長】 カラオケ大会だって、いいじゃないですか。お母さんたち、得意でしょう（笑）。大体友達と行くんでしょ、夜。上手な人いるでしょう。

【神田校長】 ステージで、ですね。

【平サポーター】 ドングリーズにやってもらって。

【平井市長】 いいじゃない、じゃあ。

【児童母親】 ドングリーズもおもしろいですが、他の先生方もいろいろ出てきてくださったら。担任の先生がやっている姿を見て、子供たちすごい喜んでいたんですよ。

【児童母親】 担任の先生の歌を聞いて、すごいうれしかったみたいですよ。

【神田校長】 芸達者の方が揃ってますんで、また検討してみたいと思います。

【平サポーター】 そのドングリーズの先生のクラスの子がみんな見に来てたね。

【児童母親】 目の前で見れて、すごい喜んでいたので。

【神田校長】 コンサートを見ていて、ああ、やっぱり学校ってこんなこともできるんだなって思ったんですよ。学校生活の中ではないし、プラザホールの中で、初めて体験できる。ああ、こんなこともできるんだ、と。

【平井市長】 何か見てみたいものとかさ、ある？ 積極的だね。名前、何ていうの。まりちゃん？まいちゃん。どうぞ。

【児童】 キマグレン

【平井市長】 あ～、キマグレンか。

【平井サポーター】 あながち、ない話じゃないですね。シーズンオフですからね。

【平井市長】 なるほど。

【平井サポーター】 いろんなところのお祭りでもね、歌っていたり、積極的に参加してますよね。

【平井市長】 平さんが出演交渉して（笑）。

【平井サポーター】 どのルートを使おうか。どこの人を通じて（笑）。そういう目玉があるとおもしろいですね。

【平井市長】 何々、どうぞ。

【児童】 久木小学校で、子供たちがつくるお化け屋敷とかをつくって、そうすれば校庭が暑くても寒けがするから。あと、ライブ、子供たちでそういうのをやったりして、わくわくコンサートとかみたいにしたら、おもしろいと思うから、そういうのをつくって、学校中とか、知らないおじさん、おじいさんたちもできるように、そうやってすれば楽しいと思います。

【平井サポーター】 いいね。体育館に大お化け屋敷つくったりしてね。できない話じゃないですね。体育館、真っ暗にすればできるから。

【平井市長】 いいじゃないですか。

【平井サポーター】 やろうか。

【平井市長】 さあ、ほか、何でもいいじゃない。僕は何かちょろっと、ふと思ったんだけどさ、クリーニング屋さん、いるでしょう、竹村さんとかね、プロのさ。プロの技、ぜひ一回見てみたいなと思ってんだけどね。ワイシャツとかさ、時々自分でやるわけ。アイロンかけて。プロは一体どうやってるんだろうとかね、そういうのを実演してもらおうとね、ほうって。いいと思いません？

【神田校長】 中学校では割合、そういう場面、例えば大工さんが、かんなをかける、ということがある。

【平井市長】 この間、テレビでやってたよ。

【神田校長】 そういう場面、技を見せてもらう。板前さんに来てもらって、魚をさばいてもらう、自分でさばく。そういうものは中学校では企画されることがあっても、小学校ではあまりない。

【平井市長】 小学校でも、大工さんとか多いんじゃないですか。かんとか、持って、使ったことある人、かんになって、知ってる？ かんになって、知ってる人。知らない？ かん、知らない？ 材木をしゅっと、こうやって削るの。

【神田校長】 小学校でも中学校でもかんは使わない、家庭でもまずない。

【平井市長】 使わないんだ。

【神田校長】 とんかち、のこぎりまで。かんは使わない。

【平井市長】 建築組合の方に来てもらって。

【平井市長】 だって、鯉節だって削ったことないでしょう、自分で。今はこういうパックだからね。昔はかつおのこういうね、しゅっ、しゅっと、手で自分の家で削ってたんですよ。それで、ああいうグルグルというのが出てくるけど。多分、古い家に行けば、まだあるんじゃないの。

【神田校長】 鯉節自体をスーパーで売ってないでしょう。

【平井市長】 そうか、もうパックしか売ってないから。でも、どこかであるよね、きっと。

【平井市長】 探し出せば、きっと古いお宅だったら、ありますよ。

【平井市長】 ああいうのだけでも、へえってなもんで。かんはいいよ。気持ちいいんだよ。ぴゅうっとやったら。想像つかないよね、きっと。いいじゃん。どんどんアイデア出してさ、それで校長先生にどんどん投げてさ、こんなのどう、あんなのどうって、それでフェスティバル盛り上がり上がる。この間の文化プラザのグランドオープンでも、ダンスチーム、すごかったね、子供たちね。ヒップホップダンス。もう小学生から。あれ、久小の子も多分いるんじゃないですかね。すごいノリノリだったんですよ。

【平井市長】 ちょうど今、シーズンで発表がある。

【平井市長】 どうです、何か言いたそう。

【児童母親】 いえいえ、校庭の片隅に芝生があるんですけど。

【平井市長】 芝生？ あれは実験だから。実験をしてみて、それで今、どんなことをやってるかという、3つのエリアに分けて、何も手を入れないでやるのと、少し手を入れて、今のね、グラウンドに。で、土を全部入れかえてみてやるのと、3つ実験してるんですよ。それで、どれが一番うまくいくかというのを、お金がかかるかどうかも含めてやって、うまくいったら、でき

たら、全部やりたいんだよ。やれるんだったら。ただ、いろいろ賛否両論あるんだな。

【神田校長】 芝生について、うちの学校では去年職員が調べたんですが、どんな課題があるか。一番の課題は何かというと、芝生自体はそんなに高価ではない、一番はメンテナンス、芝刈りが一番大事で、芝刈りは業者に頼むとか、学校の職員が頑張るとかということでは追いつかない。そのときに地域の方、保護者の方にお世話になる、力が大きく必要になる。うちの小学校は大丈夫ですよ（笑）。

【平井市長】 だから、今年の実験でどんな環境が一番いいかというのがわかったら、今度やったときに、今、校長先生がおっしゃるように、地域とか保護者とか、子供たちも含めて自分たちでどこまでケアできるかという、その体制ができたところからやるんですね。それができればね、すごく成功すると思うし。僕もたまたまテレビで見たんですよ。子供たちが裸足で走るとかね、けがを気にせず遊び回るとかっていうのがものすごくいいらしくて、聞きかじりなんだけど、50メートル走の記録が伸びるっていうんですよ。平均タイムが。みんな芝生でこうね、縦横無尽に駆けずり回るからって。へえとって。

【神田校長】 うちの学校で困っているのは、グラウンドの砂なんですね。砂が校舎の中に入ってきてちゃうんですね。

【平井市長】 やっぱりそうなんだ。

【神田校長】 昔はね、時間あるときは昇降口を掃いていたんですけど、芝生化が進むと、砂対策にもなる。それから、もちろんグリーンカーテンみたいな。

【平井市長】 視覚的にもね。

【神田校長】 視覚的にも。いろんな意味で芝生は魅力あります。

【平井市長】 あ、そうか、久小もかなり砂が入ってくるんですか。逗子小で実験したのは、やっぱり逗子小は校舎建てかえて、風がものすごい通るようになっちゃったんですよ。今、久木はこうやって、コの字型になっているから、風がグラウンドを抜けないよね。でも逗子小はすぽんとなっているんで、海風がものすごい抜いて、ほこりがこんな舞っているんですよ。近所の人もすごいこんなになってるんですよ。だから、最初実験を逗子小でやったんですけど。成功すれば多分、管理体制は久小のほうがばっちりだと思いますよ。そうしたら、最初にじゃあ久小ということになるかもしれないですね。

どんな話聞きたいかな。違う？ いい？ どう、この間、逗子小の実験のところも、小学校のあれ、1年生だったっけ、3年生か。1年生の子供たちに芝生の苗をぽっと植える作業を一緒にしてもらったんですよ。

【神田校長】 校庭が芝生になったらというイメージがどんどん膨らんでくるんですけど、芝生になったら、上履きをなくしたい。昇降口の煩雑さ。昇降口に大きな壁画を描いたんですけど、あそこに下駄箱置いちゃうんだなと。芝生化が進むとね、上履きも必要なくなっていくんじゃないか。

【平井市長】 そのまま。

【神田校長】 グラウンドの砂は芝生で取れて、そのまま入れる。もしかしたらだめかもしれないよ。そんなことも考えていけるかな。学校ももっとすっきりとした場になっていくかな。

久小は割合に古い学校なので、いろいろ実験ができる。

【平井市長】 どうでしょう、何かいいアイデア、ない？ こんなことやってみたいなって。

【平サポーター】 あと10分ぐらいで食べられるようです。

【平井市長】 あと10分ぐらいで食べられるって。

最初はね、僕も子供たちに自分の仕事のこととか、しゃべってみたいとかって思ったんですよ。難しいんだよね。どうやってしゃべったら伝わるって。市長の仕事って想像つかない？ つかないよね。大人でもわからないものね。それ、どうやってしゃべったらいいかっていうの、だれか教えてほしいんだよね。しゃべり方を。ここの、あそこにいらっしゃる先生方に（笑）。子供たちにどうやったらね、伝わるかっていう。これも難しい。川名先生、すごいあれですよ、この間、中学生の…高校生か、論文、弁論大会に行って講評して。その講評たるやね、すばらしい的確な講評していてね、さすが先生は違うなと思いましたよ。どうやったらいいんだろうね。聞いてみたいでしょう。市長って何してるんだよって。これも仕事なんですけどね。

さあ、フェスティバル、何かもっといいアイデア出そうよ。いいね。マイク。

【児童】 何かテレビでもやっていたんだけど、久木小だけじゃなくて、逗子市、久木で大きいそうめん流しをやりたい。子供がそれをつくりたい。

【平井市長】 ギネスに挑戦とかね、あるよね、時々ね。

【平サポーター】 できそうですね。

【平井市長】 そうめん流しのギネスは知らないけどね。

【平サポーター】 すごそうですね、そうめん流し。

【平井市長】 太巻きのギネスとか何か、やってたりするよね。

【平サポーター】 何かギネスに挑戦するというの、おもしろい、みんなでこうやって。

【平井市長】 もしかしたら、そうめん流し、グワーツと、こう。

【平サポーター】 ハイランドあたりから。（笑）

【平井市長】 道路通って。山の上から、ドーッとね。

【平サポーター】 妙光寺から伸ばしていけば。

【平井市長】 おもしろいね、それね。

【平サポーター】 ダイナミックな。夏はそうめん。来年のわくわくは何かギネスに挑戦しよう。みんなで。（そうめん流しだったら）一番先頭の人、披露山のとっぺんぐらいから。

【平井市長】 いいね、アイデアマンだね。何かない？ こんなことをって。

お母さんたちの…お父さんでもいいんだけど。料理コンテスト、料理の鉄人みたいな、どう？  
食材をこうやってさ、メニューがある。はい、30分で作ってくださって実況するの。日ごろの腕を競い合いましょうみたいな。なかなか、だって褒めてくれないでしょう。頑張ってるのにね。

【平サポーター】 最後の講評は、ひな先生にお願いしましょう。

【平井市長】 とかさ、おもしろいことを考えて、いろんな地域の人いっぱいいるし。例えばほら、きょうじ屋さん呼んできて、障子の張り方とか、プロの腕前をターッと見せて、あそこの平野さん、いるじゃない。僕、学生のころ、昔ね、きょうじ屋でアルバイトしたんですよ。襖とか張ってたの。だから、ちょっとできるんですよ。

【平サポーター】 子供にアンケートとりたいですね。一つアイデアを提供して。

【平井市長】 この間の文化プラザのコンサートでしょう。あそこのグランドピアノあるじゃないですか。スタインウエーの。あれ、弾いたことある人。弾いたことある？ スタインウエーのグランドピアノ、弾いたことあるの？ 発表会で。すごいね。おじさんも1回だけ弾いたことあるのよ、子供と一緒に。すごい弾きやすいんだよね。音がいいからね、スコーンって、下手でもね、会場内にバーッと響きわたるわけ。そういうの、すごい気持ちいいんですよ。そういうの体験するだけでも。ピアノ習っている人、いっぱいいるでしょう。

【平サポーター】 本当に2週間前ぐらいにね、やったばかり。

【平井市長】 あれ体験するだけでもね、ものすごく感動するのよ、弾いている本人が。

【神田校長】 ピアノ、高いそうですね。

【平井市長】 あれは1,600万円するからね。スタインウエー、1,600万円じゃなかったっけ。たしか。あのホールはね、プロからも評判いいんですよ。すごい音響がいいって。プロもあそこはいいって言ってくれてるんだよ。

【神田校長】 今回、プラザホールの使用料、全部減免なんですよ。

【平井市長】 そうですよ。

【神田校長】 会場を借りるための金というのは一切お支払いしてないんですよ。本当にありがたいですね。

【平井市長】 だから、それこそあれじゃないですか、発表会とって、みんなでね、腕を競い合ってさ、ピアノコンテストとか何とか合唱大会とかさ。

【神田校長】 例えば中学校の合唱発表会をあそこでやりたいと思っても、入らないんですよ。

【平井市長】 500だね。

【神田校長】 550じゃ入らない。最低1,000収容できないと。

【平井市長】 それは今言っても始まらないな～。最初700って言ってたんだけどね。でも、いろいろお金かかるから。

【神田校長】 うち、子供たちだけでも600いますから。

【平井市長】 久小全部で600。

【神田校長】 保護者のことも考えたり、観客等いろいろ考えると倍は必要。

【平井市長】 微妙だね。

【神田校長】 今回、プラザホールのコンサートで、最初人が集まるかなと心配した。だけど、こんなふうにとんどん希望が出てきて、今度はあふれちゃったらどうしよう。ちょうどぎりぎりぐらきいで、550定員のところ520でおさまったので、よかった。

【平井市長】 2回公演しなきゃね。すごい。やっぱりね、こういうのはノウハウですからね。学校側としてどうやってあそこを使うかというのは、いろいろ経験を積み重ねないと、いきなりはできない。やっぱり徐々に、そういうのをみんなが引き継いでいくといいですよ。

【平井市長】 地域支援の取り組みも、本当にこうやってみてわかることがたくさんありますので。

【平井市長】 さあ、そろそろおなかも減ってきたところで、おやつ食べようか、デザート。まだ？

【平井市長】 もう大丈夫です。

【平井市長】 まだだって。

【神田校長】 ちょっとそのプラザホールでのコンサートのビデオ撮影見ましょう。

【平井市長】 いいですね。